



すみだの春。

住田町に関わりをもってくださいるみなさまへ、
住田町の「今」をお届けします。

3/11 はなよせの会

東日本大震災からちょうど8年が経過した2019年3月11日。まち家世田米駅蔵ギャラリーにて、一般社団法人邑サポート主催の「はなよせの会」が行われました。町内からたくさんの方が花寄せに訪れ、時間を追うごとに花瓶が綺麗な花で覆われていきました。14時46分には蔵に集った方で黙祷が捧げられました。



開場直後から少しずつ寄せられる花が増えていき、翌日には大きな花となりしばらくまち家のSUMIcafeに飾られました。

3/15 くずまきワイン&リアスワインの会 @ kerasse

3月15日、葛巻町のくずまきワイン、陸前高田市の神田葡萄園リアスワインをお招きしたセラッセとのコラボイベントが開催されました。恒例となったセラッセでのワインイベント。毎回好評を博していることもあり、会場は満員御礼の大盛況でした。葛巻町より鈴木町長、神田葡萄園より熊谷さんにも会場にお越しいただき各ワインの説明をもらう時間も設けられ、生産者との距離が近い充実したイベントとなりました。セラッセの菅野シェフからは料理の説明も行われ、参加者は料理とワインのペアリングを楽しんでいるようでした。地元バンドサイダースのスペシャルライブも同時開催され、ワインと料理に加え音楽にも酔いしれた、素敵なイベントとなりました。



くずまきワイン



リアスワイン



3/23 三陸ビールの会 @ kerasse

3月23日、大船渡に拠点を置く三陸ブルーイングとセラッセのコラボイベントが開催されました。三陸地域の資源を活かした地ビール「三陸ビール」を通じて三陸の自然の魅力を発信したいという思いからスタートした三陸ブルーイング。ビールの原料には三陸の食材を使用しており、ネーミングもとてもキュート。大船渡のヤブツバキの茶葉を使用した「週末のうみねこ」、陸前高田の北限のゆずを使用した「恋するセゾン」、三陸沿岸で水揚げされた牡蠣を使用した「ばばばスタウト」。あらゆるところにこだわりの見える三陸ブルーイング。代表の南さんが自らビールをサーブし、参加者の方へビールの説明も行うアットホームで素敵なイベントとなりました。



3/28 - 4/4 チーム伯楽滞在 @ 住田町

昨年何回も住田町へ足を運んでくれている、若手アーティストの集い・チーム伯楽が再び来町。オリジナル映画第二弾制作のため、1週間ほど滞在し町内での撮影を敢行しました。首都圏在住の若者で構成されるチーム伯楽は、住田町での映画制作を通し関係人口としての新たな関わり方を実践中。今後の彼らの作品とともに、どんどん広がる新しい繋がりにも期待です。

▼最終日、住田町での滞在の思い出を歌にして披露してくれました。



住田町の新たなお土産誕生！ 「鶏ハラミのアヒージョ缶詰」

セラッセと南三陸魚市場キッチンの共同開発により、住田町の新たなお土産が今春、誕生しました。セラッセの名物料理「鶏ハラミのアヒージョ」を大胆にもそのまま缶詰に！味は「ピリ辛」「ネギ塩」「にんにく」の3種類。お酒のおつまみにピッタリな一品が誕生しました。「道の駅種山ケ原ぼらん」にて販売開始予定！住田町にお越しの際はぜひお土産にどうぞ。



金星工業
新入社員研修
×
住田町



金星工業新入社員研修@住田町

4/9-13 愛知県幸田町に本社を置く、金星工業株式会社(以下、金星工業(株))の新入社員研修が、住田町で初めて開催されました。

金星工業(株)は、今年で創業65年の老舗自動車部品メーカー。(株)デンソーの協力会社として安定的な取引を続け、現在社員数は約300名。海外にも関連会社を展開するグローバルな会社でもあります。

東日本大震災後、愛知県幸田町と住田町が災害応援協定を結んで以降、行政間での交流はありましたが、民間企業同士の交流はあまりありませんでした。

今回の研修は、金星工業(株)松本社長が、「新入社員の人間力やチームワーク力を強化したい」と、認定特定非営利活動法人愛知ネットの天野理事長に相談をし、一般社団法人SUMICA(以下、(一社)SUMICA)がコーディネーターとなり、住田町の方々の多大な協力を得て、実現しました。

金星工業(株)の今年の新入社員は男女3名ずつの6名。東日本大震災時、小学生や中学生だった彼らにとって、被災地を見ることは初めてということもあり、初日は陸前高田市や大船渡市を回りながらオリエンテーションを行いました。その後、大股地区公民館での炭窯作りを一からは



じめるところから始まり、薪割り、泥運び、地域の方々との餅つき、バーベキュー、下有住地区公民館の方々によるそば打ち体験、吉田樹苗さんでの杉の苗木植え、大交流会と盛りだくさんだった今回の研修。最終日の大交流会では、お世話になった方々に対して、感謝の気持ちを込めた色紙をプレゼントし、一人一人が住田町で過ごした4泊5日を振り返り、発表しました。

住田町を第二の故郷とし、また必ず遊びに来ると宣言してくれた6人の顔は、帰る頃には、来た時よりも頼もしく、立派になっていました。

祝!
まち家3周年



まち家世田米駅3周年記念イベント「まちや蚤の市」開催!

4/29 4月29日、まち家世田米駅がオープン3周年を迎えました。当日は、3周年記念イベントとして昨年同様「まちや蚤の市」が開催されました。かつて内陸と沿岸の物流拠点として栄えた世田米地区のにぎわいを再現するため、町内外から飲食店や雑貨店を招致し、住田町自慢の杉屋台を活用した蚤の市を実施。今回は住田町のほか、一関、釜石、陸前高田、大船渡より出店者の方々に御参画いただきました。今年も晴れの日にはハレノヒを迎えることができ、イベントは大盛況となりました。

また今年も、出店ブースのほか「身体のメンテナンスコー



ナー」を設置。ネイルケアブース、クイックマッサージブースはどちらも列が途切れず人気でした。蔵ギャラリー2Fでは羊毛フェルトを使ったワークショップも実施。小学生らがたくさん集い、羊毛フェルトのコースターづくりなどを体験していました。広場では、地元バンド「サイダース」に加え大槌のバンド「ナンダ★モンセ」の特別ライブも開催。青空に響き渡る歌声、おいしい食事、おいしいビール……。世田米に人が集い、ゆるやかな時間が流れ、またにぎわいが生まれた時間となりました。交流拠点施設として志を新たに、まち家世田米駅は4年目に突入しました。

世田米三年祭



小府金・神楽



柿内沢・鹿踊



東峰・手踊り



上組・手踊り



下組・手踊り



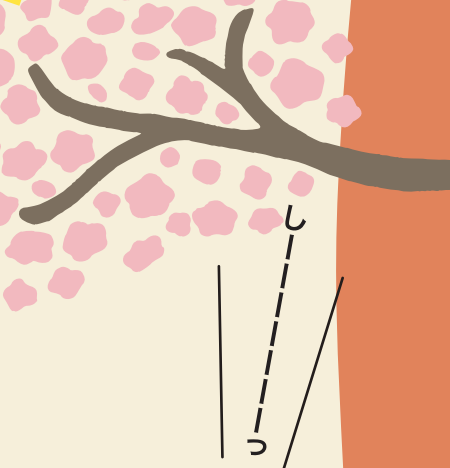
中沢・権現様



中沢・手踊り



そーれっ みんな声出して〜!



下在・大名行列

世田米・天照御祖神社式年大祭

中沢・太鼓踊り



住田町世田米に鎮座する天照御祖神社の式年大祭は、5月4日に世田米商店街にてメインとなる行列が行われました。行列では、郷土芸能や権現舞、手踊りからなる各祭組が長期間にわたる練習成果を披露。雲ひとつない青空にも恵まれ、沿道には町内外より多くの見物客が詰めかけ、3年ぶりの式年大祭は大いに盛り上がりを見せました。

神社にて例祭や発輿祭等が執り行われたのち、各祭組などが大崎交差点に集合し、行列が開始。稚児をはじめ山谷組曲録や下在組大名行列、八幡、立石稻荷、八坂、天照御祖各神社が連なり、1時間余りをかけて練り歩きました。小府金神楽や山王神社、八幡神社、秋葉山の各権現、柿内沢鹿踊り、仲町山車は威勢のいい掛け声や演武で盛り上げました。さらに東峰、中沢、上組、下組の山車や娘手踊りも、演舞

とともに商店街を練り歩き、行列に華を添えました。各祭組が色鮮やかな青、赤、紫などの着物に身を包み躍動感あふれる舞を披露した娘手踊り。全祭組が異なる曲目をいくつも準備し、祭全体で聞こえてくる音楽は10曲以上に及びました。1ヶ月以上の練習を経て、各組の競演が果たされ、お互いの組を称え合う姿も見られました。後ろに続く山車から聞こえる太鼓の音、ともに練り歩く笛の音、お囃子の掛け声、す

べてが響き渡り、世田米商店街に描かれた昔ながらの祭り絵巻に沿道からはたくさんの拍手が聞こえました。今回の式年大祭も、踊り手は地域住民にとどまらず、出身者や住田につながりがある都市部在住者の参加もみられました。人口減少が進む中でも町外からの参加者を受け入れることにより、今回のような行事を通し地域を超えた広がりが生まれています。

よいさっ





✓発行 住田町 〒029-2396 岩手県気仙郡住田町世田米字川向 88 番地 1

✓制作 一般社団法人 SUMICA 〒029-2311 岩手県気仙郡住田町世田米字世田米駅 13

2019_05_15